

事業概要説明シート

事務事業名	保健科学検査事業			所管課	保健福祉局健康科学研究センター 保健科学課	
				事業開始年度	平成19年度	
根拠法令等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律			実施方法	■直営 □業務委託 □補助金 □その他()	
事業概要	<p>感染症法などに基づく行政検査を正確かつ迅速に実施し、科学的根拠に基づいた情報提供を行うことや、地域保健業務を科学的・技術的に支援することで、市民の健康増進に寄与している。具体的な事業としては、感染症に関する試験検査の実施、感染症情報の収集・解析・発信、新生児マス・スクリーニング事業*、健康科学研究センター検査機能強化事業、新興再興感染症対策事業*を実施している。</p> <p>*新生児マス・スクリーニングとは、先天性代謝異常等19疾病の早期発見のために行う新生児の血液検査</p> <p>*新興再興感染症とは、新興感染症(公衆衛生上問題になる新しく認識された感染症で、エイズや鳥インフルエンザ等)と、再興感染症(かつて流行したものの減少し再び増加してきた感染症で、デング熱等)を総称したものを。</p>					
事業費	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	千円	171,746	181,500	184,227	192,349	199,448
後期基本計画実施計画実施状況	①	進行管理事業名	新生児マス・スクリーニング事業			
		目標指標	計画目標 (平成26年度末)	実績 (平成26年度末)	平成26年度取組内容	
		検査項目数	24項目	24項目	新しい新生児マス・スクリーニング検査法の検討(タンデムマス法による副腎過形成症の確認検査の研究)を実施しました。	
	②	進行管理事業名	新興再興感染症対策事業			
		目標指標	計画目標 (平成26年度末)	実績 (平成26年度末)	平成26年度取組内容	
		新興再興感染症の検査	—	新興再興感染症に係る研修会等への参加	新興再興感染症の最新の知識について学び、正確かつ確実に検査結果が出せるよう国立感染症研究所や結核研究所等における研修を受講するなど、人材を育成しました。	
	③	進行管理事業名				
		目標指標	計画目標 (平成26年度末)	実績 (平成26年度末)	平成26年度取組内容	
	④	進行管理事業名				
		目標指標	計画目標 (平成26年度末)	実績 (平成26年度末)	平成26年度取組内容	
	⑤	進行管理事業名				
		目標指標	計画目標 (平成26年度末)	実績 (平成26年度末)	平成26年度取組内容	

<備考>
平成23年度、平成24年度、平成25年度の補正予算は、すべて流用額である。

事業概要説明シート

<p>成果・実績等</p>	<p>感染症に関する試験検査については、事業開始の平成19年度から、正確かつ迅速な実施と結果報告を堅持している。感染症情報の収集・解析・発信についても、週報・月報の定期報を作成し発信しているとともに、社会的関心度の高い感染症について、その都度ホームページなどで感染予防をはじめとした情報発信を行っている。発信した情報については、学校や市内の公共施設、福祉施設でも感染症の注意喚起に利用されている。</p> <p>新生児マス・スクリーニング事業については、平成19年4月より6疾病を対象に検査を開始したが、平成24年10月からはタンデムマス法*を導入し、19疾病を対象としたより精度の高いスクリーニング検査体制を構築することできた。</p> <p>健康科学研究センター検査機能強化事業では、検査に不可欠な機器を計画的に更新し、健康危機に対応できる検査能力を維持・強化することができた。(整備した検査機器は3台)</p> <p>新興再興感染症対策事業については、平成26年度から実施しており、新興再興感染症の最新情報の収集や、高度化する検査技術の習得を行い、人材の育成に努めた。</p> <p>*タンデムマス法とは、新生児マス・スクリーニング検査における新しい検査法で、タンデム型質量分析計を用いて一度の分析で、16疾病を調べることが可能である。</p>
<p>現状の課題等</p>	<p>感染症に関する試験検査の実施及び新興再興感染症対策事業については、さいたま市における唯一の公衆衛生行政の科学的・技術的中核機関として、専門性の高い熟練した職員を育成し、かつ急速な技術発展を遂げている検査法に見合った機器及び試薬・器材を整備する必要がある。</p> <p>感染症情報の収集・解析・発信については、市民や関係機関がより利用しやすい情報となるような発信方法を、検討し取り入れていくことが必要である。</p> <p>新生児マス・スクリーニング事業は、生まれて間もない新生児の血液を検査することで、疾病を早期に発見し治療につなげるため、精度管理の維持を図ることが必要である。</p> <p>健康科学研究センター検査機能強化事業については、機器の経年劣化による検査不能状態を起こさないために、計画的に機器の更新を行い、さらに予測困難な健康危機に対応できる機器の整備も必要である。</p>

【参考】

		区分	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業費内訳	事業予算	当初予算	千円	63,731	74,121	76,048	84,361	92,164
		補正予算	千円		403	477	224	
		合計	千円	63,731	74,524	76,525	84,585	92,164
		財源内訳	国・県支出金	千円				
	市債		千円					
	その他特定財源		千円	6,370	7,688	9,834	10,350	9,774
	一般財源		千円	57,361	66,836	66,691	74,235	82,390
	事業費	支出済額 ①	千円	63,690	73,444	76,171	84,293	91,392
		不用額	千円	41	1,080	354	292	772
		翌年度繰越額	千円					
		翌年度精算金 ②	千円					
		前年度償還金 ③	千円		382	477	224	192
	概算人件費	正規職員	人	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0
		再任用職員	人					
概算人件費 ④		千円	108,056	108,056	108,056	108,056	108,056	
事業コスト (①-②+④)		千円	171,746	181,500	184,227	192,349	199,448	